

各位

上場会社名 株式会社 日本エスコ
 代表者 取締役社長 直江啓文
 (コード番号 8892)
 問合せ先責任者 執行役員 古川格
 (TEL 06-6223-8067)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	18,500	1,300	150	150
今回発表予想(B)	11,000	△2,800	△3,750	△7,450
増減額(B-A)	△7,500	△4,100	△3,900	△7,600
増減率(%)	△40.5	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	12,569	1,713	370	235

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	15,000	700	0	0
今回発表予想(B)	10,100	△100	△600	△7,500
増減額(B-A)	△4,900	△800	△600	△7,500
増減率(%)	△32.7	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	11,823	1,385	474	308

修正の理由

(1)連結

昨年からの景気悪化及び将来不安に伴い消費者の不動産購入意欲の冷え込みは依然として続き、金融市場の混乱や資金調達環境の悪化により、特に収益不動産の売買環境は停滞しており、不動産業界を取り巻く環境は、依然として厳しい状況であります。

このような状況下、当社は在庫の早期売却及び資産の圧縮によるキャッシュの確保を最優先に事業に取り組み、分譲事業については、平成21年6月末時点において前期末在庫194戸を87戸に圧縮する等販売を促進してまいりましたが、一部物件での販売状況の遅れ等により売上高7,100百万円(当初計画比13.4%減(当初計画売上高8,200百万円))と減少する見込みであります。アセット開発事業については、昨年からの金融市場の信用収縮の影響により、流動性が著しく低下し、売り先の事情及び売却価格の調整がつかないこと等により、予定していた不動産の売却案件が中止になる等依然として厳しい状況が続いております。現時点において第2四半期に売上計上されている案件は第1四半期に計上済みの1案件にとどまる見込みであることから、売上高3,500百万円(当初計画比49.3%減(当初計画売上高6,900百万円))と大幅に減少する見通しであります。

さらに、たな卸資産及び固定資産を直近の市場環境を勘案し、現時点において再度評価を行った結果、たな卸資産評価損3,357百万円を売上原価に、減損損失2,255百万円を特別損失に計上する見通しであります。

また、当社が保有する投資有価証券を売却したことによる、投資有価証券売却損1,231百万円を特別損失に計上する見通しであります。

以上のことから、利益面については、売上高の減少等により、営業損失2,800百万円、経常損失3,750百万円、当期純損失7,450百万円となる見通しであります。

これらの理由により、上記の通り業績予想の修正をすることといたしました。

(2)個別

個別業績につきましては、連結業績予想修正の理由と同様であり、たな卸資産評価損280百万円を売上原価に、固定資産の減損損失1,012百万円、その他の関係会社有価証券評価損1,242百万円、貸倒引当金繰入額2,464百万円、関係会社事業損失引当金繰入額755百万円、投資有価証券売却損1,231百万円を特別損失に計上する見通しであります。

これらの理由により、上記の通り業績予想の修正をすることといたしました。

なお、平成21年12月期通期業績予想及び期末配当予想についても、今後修正が予想されることですが、平成21年6月2日付で公表いたしております「事業再生ADR手続及び今後の事業再生への取り組みに関するお知らせ」に記載の通り、現在事業再生ADR手続を行っているところであり、計画案の成否を含め、今後の事業再生ADR手続における債権者会議にて確定する予定ですので、現段階においては業績の予測をし難い状況にあります。

したがって、本件につきましては、今後確定次第速やかに開示を行います。

以上